

# 摂津市まちづくり市民会議

## 第1回「オープニング！」 議事概要

日 時：平成 21 年 4 月 13 日（月）19:00～21:10

場 所：摂津市立男女共同参画センター 3F 大会議室

出席者：市民 22 名（欠席 0 名）、事務局 7 名、コンサルタント 3 名

### 1. 市長あいさつ

・はじめに、森山市長からあいさつがありました。

- ・新しい総合計画の策定に向けて“摂津市まちづくり市民会議”への参加者を公募したところ、多数ご応募いただきありがとうございます。
- ・摂津市が誕生したのは昭和 41 年で、今年で 43 年目になります。当時と比べると人口は 2 倍になっており、大阪の衛星都市の一つとして発展を遂げてきています。
- ・現在は第 3 次総合計画に基づきまちづくりを進めています。後 2 年で現計画が期限を迎えることから、第 4 次総合計画の策定を進めています。総合計画がどのようなものかということについては、あまりご存知でない方も多いと思います。振り返ってみると計画通りに上手くいったものもあれば、計画通りに行かなかったものもあります。時代の変化が著しいことから、計画期間を 10 年間とするとともに、市役所だけで作成するのではなく、市民の皆さんの率直なご意見をお伺いしてまちづくりの方向性を考えていきたいと考え、“職員総がかり”“市民参加”というかたちで新たな計画の策定を進めていきたいと考えています。
- ・市長に就任してから繰り返し申し上げているのが“人間基礎教育”であります。この精神を、摂津市のこれからのまちづくりの中に取り入れていくことができればと思います。また、摂津市は産業のまちでもあります。福祉もしっかりとしなくてはなりません。環境についても地球的な課題であり、摂津市の大きなテーマです。こうしたことも考慮していただきながら、ご提案をいただければと思います。よろしく申し上げます。

### 2. 参加者紹介と本日のプログラムの説明

- ・事務局から参加者のお名前を読み上げるかたちで、参加者の紹介がありました。また、事務局とコンサルタントの紹介がありました。
- ・事務局からプログラムの説明がありました。また、市民会議の活動記録のために写真撮影を行うことや、写真を広報紙やホームページに掲載することについて事務局から説明があり、了承されました。

### 3. 総合計画とまちづくり市民会議について

- ・総合計画やまちづくり市民会議の活動の進め方について事務局から説明がありました。
- ・説明の後、質疑がありました。

Q：第3次総合計画がどのように進んできたのか、目標に対してどのような進捗状況にあり、どのような課題があるのかなどを説明してください。

A：第3次総合計画の進捗状況を検証するため、庁内各課で分担して“総括シート”の作成を進めています。あくまでも自己評価ではありますが、「できた」、「できなかった」とか、成果を「○」、「△」、「×」などと評価するとともに、今後の課題をまとめています。とりまとめができましたら、資料を公表する予定です。

Q：“南千里丘のまちづくり”、“正雀駅前のまちづくり”、“吹田操車場跡地のまちづくり”と、総合計画のまちづくりとの整合性はどのようにとっていくのですか。

A：南千里丘では、来年春に“(仮称) コミュニティプラザ複合施設”が開館する予定であり、様々な市民活動がなされるものと期待しています。吹田操車場跡地については、土地を取得し、土地区画整理事業を今年度から開始する予定です。市民会議の皆さんから、まちづくりの方向性などについてのご提案をいただければと思います。正雀駅前については、道路の状況が悪いということでまちづくりワークショップなどを開いていますが、閉店するお店がみられます。活性化方策についてご検討いただければと思います。駅周辺の整備についても、用地取得のための交渉などをしてはいますが、すぐに解決するような課題ではありません。総合計画にも位置づけて取り組みを進めていきたいと思っています。

Q：“まちづくり市民会議”と“策定委員会”、“総合計画審議会”とはどのような役割を分担しているのか。“総合計画審議会”では市民を公募されるのか。

A：“策定委員会”は、市長を委員長とする庁内の策定組織です。“職員総がかり”で策定作業を進めていくこととしており、庁内組織として、次長・課長級を中心とする“幹事会”と、今後10年、20年の摂津市を担うことになる若手職員による“実務担当者会議”を設置しています。また、総合計画審議会とは、条例で定められた審議会で、市長からの諮問に対して答申を行っていただきます。このまちづくり市民会議からも、各部会のリーダーとサブリーダーをしていただく4名に審議会委員としてご参加いただく予定です。審議会の人数については、規則で30名以内と定められています。前回の策定時には、市議会議員が4名入っておりましたが、今回は入られない予定ですので、公募市民の方にも何名かご参加をいただく予定で、合計で25名程度となる見込みです。

#### 4. 意見交換

- ・自己紹介を兼ねて、摂津市の良い点や課題などについて、一人ずつお話いただきました。

- ◆青少年の健全育成の活動をしています。摂津市が活気のあるまちとなるためには、“子どもたちの元気”が一番ではないかと思います。子どもたちが元気に暮らしていけるまちについて考えていきたいと思います。
- ◆自治会長をしています。“面識社会”とも言われるように、顔と名前が一致する人間関係を地域で作ることがコミュニティの基本だと考えています。中学校区ごとにあたる“すこやかネット（地域教育協議会）”のお手伝いをする地域コーディネーターとしても活動しています。少し広い視野にたつて、市民と行政とのパートナーシップや協働を進めていくことにより、様々な問題の解決を進めていけるのではないかと考えています。
- ◆男女共同参画センターを拠点として活動している“ネットワーク・チャオ”に参加しています。また、“チューリップアート”や環境に関わる活動もしています。摂津市は人口が8万人程度の規模であることから、コミュニケーションがとりやすいまちだと思います。環境に関しては、新しくできる阪急摂津市駅がCO<sub>2</sub>排出ゼロの駅になるようですが、そこだけでなく、次世代につなげていける、残していける環境に配慮したまちづくりを進めていくことができればと思います。摂津市に名所がないことをとても残念に思っており、話題の0系車両が展示されている“新幹線公園”を活かした取り組みをしています。大阪ミュージアム構想でも取り上げられており、橋下知事にも関心を持っていただいています。他にも“摂津ならではの”という場所があると思いますので、機会があれば行ってみたいと思います。
- ◆JR千里丘駅の近くに住んでいます。66歳になりますが、今も高槻市で働いています。このような活動に参加するのは初めてですので、いろいろと教えていただきたいと思います。摂津市に住んで36年になりますが、周辺の大阪市や茨木市、高槻市と比べると若干取り残されているように感じています。活気のあるまちづくりを期待しています。そのためには、「若い世代が住みたい」と思えるようなまちづくりやまちおこしを進める必要があると思います。
- ◆“チューリップアート”の活動に関わっています。民生委員もしており、子どもたちの登校の見守りをしています。摂津市は、JRや阪急などの鉄道でまちが区切られていることから、一体的なまちなみを形成しにくいなどの状況があり寂しさを感じています。
- ◆昭和園に住んでいます。定年までずっと病院で働いていました。定年退職後は時間にゆとりができ、徐々にいろんな活動に参加しつつあるところです。市民会議の委員が公募されていることを知り、若い人から高齢の人までいろんな意見が反映でき

ればと思ひ参加しました。摂津市に住んで 40 年近くになりますが、“第 2 のふるさと”だと思っています。子どもさんが元気であるとともに、高齢になっても“住んでよかった”と思えるまちにしていきたいと思ひます。

- ◆以前は上新庄に住んでいましたが、結婚を機に 3 年ほど前に摂津市に引っ越してきました。コンピューター関係の仕事をしています。若者の投票率がとても低いことが気にかかっており、自分でも何かできることはないかと考え、市民会議に参加することとしました。子どもを保育所に預けており、教育面に関心を持っています。多少不便でも大阪の中心部とやや離れているほうが、悪影響があると思われることから子どもを遠ざけることができ、子育てをするにはちょうど良いと思ひます。“新幹線公園”もあってよいと思ひます。
- ◆正雀のまちづくりの活動に関わっています。摂津市は産業のまちですが、商業も大事な要素の一つだと思ひます。高齢化が進み、買い物にいけない人が増えています。商業者もがんばらないといけないと思ひますが、バリアフリーなどのハード面だけでなく、高齢者が買物をしやすい環境を整えていく必要があると思ひます。また、より良いまちをつくっていくためには、他人任せ、行政任せではなく、みんなが動く必要があります。机上の議論ではなく、実際の街をしっかりと見て、提案を考えていくことが必要だと思ひます。
- ◆大阪人間科学大学の大学院生で、摂津市に住んで 4 年目になります。建築や都市計画が専門です。若者の視点からまちづくりの提案を作成することもあります。現実味が感じられないような提案になってしまうこともあるように思ひます。市民会議に参加して、理想と現実の中間を上手く見つけられるような話し合いや提案ができればと思ひます。
- ◆摂津市に長く住んでおり、摂津市は、“私のふるさと”という気持ちでおります。しかし、摂津市の好きなところを尋ねられても、答えがなかなか思ひつきません。正雀駅周辺は道路が狭く、汚いビルが多いように思ひます。高齢化が進むとともに、学生や独身者のマンションも多く、自治会活動も活発ではありません。同じ摂津市の中でも、よく整備された地区と、正雀のように手付かずの地区があるように思ひます。正雀という地区は摂津市のなかでどういう位置づけにあり、今後どういう方向でまちづくりが進められるのでしょうか。独立した子どもたちから「摂津市は永住するところではない」といわれショックを受けました。学校など教育面のこともあるとは思ひますが、まちが薄暗いことや、河川を含めてまちが汚いことなどが理由のようです。また、まちのイメージも暗いようです。正雀という小さい地域から摂津を見た場合に温度差があるように感じています。皆さんと意見交換をして、“ふるさと”と思ひているまちを少しでも良くできればと思ひます。

- ◆ 摂津の端の方にある鳥飼上地区に住んでいます。モノレールの沿線地域に比べると、病院への通院や買い物など様々な面で不便な地域であり、好きなのところがなかなか見つかりません。大きな買い物をするときは茨木や高槻の方へ出かけています。摂津市というよりも“鳥飼”と言った方が場所がわかってもらえるなど、摂津市のことがあまり知られていないように思います。自分の住んでいる地域を愛するということはとても大事なことだと思います。自治会の活動に関わることで、いろんな経験をしてとても勉強になっています。高齢者の介護予防の活動には10年近く関わっています。近所に小学校や中学校、保育所などがあり、いろんな世代の人のお話が聞けて、家の周り自体は良いところだと思っています。
- ◆ メーカーを退職して4年目になります。会社に勤めている時に、会社の10年後のビジョンづくりにも関わったことがあります。摂津市に住んで60数年になります。ずいぶんと都市化が進んだと思います。歴史的にみると、一津屋地区は、平安時代には難波から京都への水運の要衝でありました。時代が変わり、今ではバスも不便な地域となりました。このまちに60年間住み続けているのですが、その理由については、自分でもよくわかっていません。市民会議に参加してそうしたことについても再認識ができればと思います。ハード面でのまちづくりについても議論したいと思います。話し合いにあたっては、個別の施策にとらわれすぎず、「摂津市をどのようなまちにしたいのか」という10年後のありたい姿やコンセプトをしっかりと共有することが重要だと思います。方向性が決まれば、取組の優先順序などもつけていけるように思います。
- ◆ “新線組”というグループをつくり、新幹線公園の美化などに取り組んでいます。鳥飼車両基地の新幹線を子どもたちに安全に見せてあげたいという気持ちから、市のまちづくりワークショップの参加者が集まって活動をはじめました。桜をたくさん植樹し、きれいになりました。摂津市の好きなのところは人口8万人という“小さな町”であることです。市民がちょっと力を出せば何とかできるのではないかと思います。いろんな活動をしている人とつながりがもてればと思います。また、先ほどは不便だというお話がありましたが、高速道路に近く、バスと電車を乗り継げば、大阪市にも30分程度で行けるので、大阪に近いながらも“のどかなまち”だと思います。摂津市は小さい町なので、車で通ってもあつというまに通りすぎてしまうと思うのですが、“摂津に来た”ということがわかるように“摂津カラー”を定めて、まちに色をつけることができればわかりやすいと思います。また、全国への情報発信になると思います。
- ◆ 摂津市の良いところとしては、新幹線やモノレール、阪急、JRなど6～7種類の交通機関があることがあげられます。そうしたことをPRすることにより、集客や

賑わいのあるまちづくりにつなげることができればと思います。また、汚れていたり、まちを分断するなどの面もありますが、河川がこれだけある街というのも少ないように思います。課題としては、道路が整備されていないことがあげられます。行き止まりの道も多いです。また、摂津市は1400年前から河内港の沿岸となり様々な歴史や文化があるのですが、そうした歴史や文化を大切にしていなかったように思います。資料館や博物館が整備されておらず、発掘による出土品などがあちこちに保管されています。平安時代のものなど、大阪府下でも貴重なものが出土していますので、どこか一箇所にまとめて展示し、市民などが見学できるようにしていただきたいと思います。また、現在第6集会所となっている“芝居小屋”は貴重な建築物であり、もっと活かしていくことが必要だと思います。史跡や文化を大切にしていって、摂津の特徴を全国発信していくことが必要です。市役所の広報担当にもがんばっていただきたいと思います。

◆仕事を退職して8年になります。摂津に住みながら、近江今津で野菜づくりをしています。精神障害者に関わる活動やボランティアをしています。親戚が近くに住んでいるということもありましたが、新大阪や京都、伊丹空港に近く、仕事の面からも大変便利であるということで摂津に住むことになったように思います。仕事と子育てを両立させるために、子育てをしながら、保育所や学童保育が整備されるように行政に働きかけてきました。摂津市が小さい町であることがいいところであるというお話がありましたが、その通りだと思います。保育所整備の取組もそうでしたが、みんながこうしたいと思うことを力を合わせて取り組めば何とか実現できいくように思います。また、好きでないところとしては、歩道の段差が大きかったり、歩道が整備されていないことや、鉄道の下を通り抜けるガード下の通路が狭いことなどがあげられます。障害者など弱い立場の人にやさしいまちづくりや、市民の暮らしに視点をおいたまちづくりを考えていきたいと思います。仕事で農村部のまちおこしに関わった経験もあるので、そのような経験が活かされればと思います。

◆娘が、関東から大阪に戻ってくるので、「新しい住まいをどこにすればよいか」と相談を受けました。私立幼稚園の園長の仕事をしていたのですが、関東の大規模の幼稚園に比べると、摂津ではきめ細かな教育ができると思います。しかし、摂津市を勧めてよいのかどうか迷いがあります。“ふるさと摂津案内人”というグループで活動をしています。摂津には小さいけれど磨きのかかかっていない名所があります。先ほどの芝居小屋のように歴史があって素晴らしいところがあるのですが知られていません。摂津市は情報発信がよくないと思います。いろんな行事やイベントがいつどこであるのかがわかりません。広報紙に小さな文字でかいてありますがわかりにくいと思います。改善する必要があると思います。

- ◆ JRの駅に近く便利な所に住んでおり、大阪や神戸に通勤していました。隣近所がとても人情豊かなまちです。摂津市はJRや阪急、新幹線などの鉄道や河川で非常に細かく分断されているように思います。今朝も人身事故のため踏切が4時間も通行できないといったことがあったようです。分断されたまちをどうしていくかということが課題だと思います。また、摂津市には全国発信できるものが少ないと思います。秋頃に実施している“摂津音楽祭（リトルカメラコンクール）”は全国に発信できるものだと思います。また、全国に売れるような商品が何か一つでもできればと思います。心配なこととしては、医療・介護があげられます。総合的な病院が少ないように思います。歯科医院は多いですが地域的に偏在しているように思います。後期高齢者が安心して暮らせるまちになればと思います。
- ◆ 転勤が多かったのですが、定年を迎え、摂津市に永住することになりました。摂津市を永住先としたのは、街が非常にコンパクトで交通の便が良いということが理由です。摂津市の知名度が低く、どこに位置するのかがわかりにくいと知人によく言われますので、全国発信できるようなものができればと思います。例えば、“鉄道特区”のようなまちにして、カメラマンなどを迎え入れるまちづくりなどができればと思います。また、楽しく散歩ができるまちになればと思います。男性でも怖いと感じるところがあります。近くの公園に何かの由来を示すプレートがつけられていたのですが、詳しい説明がないためよく分かりませんでした。そうした歴史などもわかるようになっていけば、まちへの愛着などが出てくるように思います。
- ◆ 鳥飼で生まれ育ちました。転勤が多かったのですが、仕事を引退してから、摂津のまちで何かできることがないかと思っていたときに、文化振興計画の市民委員の募集があり、それに応募したところから市役所と関わるようになりました。情報発信がうまくできていないと感じており、摂津市文化振興市民会議では、毎年秋にある複数のイベントの情報を一つにまとめて情報発信を行う試みをしています。鳥飼や新幹線の基地は広く知られているのですが、“摂津市”だけでは場所がわかってもらえません。摂津市は知られているようで知られていないまちだと思います。息子に「鳥飼は住みたいまちか」と尋ねたところ、「住みたくない」というのでさびしい想いをしています。長く住まうことにより、摂津が“ふるさと”になっていくのだと思います。“ふるさと摂津案内人”として活動しており、私のテーマは鳥飼と陰陽道です。鳥飼の歴史は洪水の歴史です。旧家を訪ねると貴重な資料を見せていただくことがありますが、きちんと保管されているとはいえない状況です。歴史を次の世代に伝えていけるようにしなくてはならないと思います。また、摂津は、歩行者や自転車などの交通マナーが悪いと感じています。安心して暮らせる安全なまちづくりが必要だと思います。

- ◆ 摂津に住んで10年になります。摂津の好きなおところは、まちがこじんまりとしているところと、各駅停車しか電車がとまらないところです。また、摂津という言葉の響きや、北摂地域に入るといっても気に入っています。葬儀関係の仕事をしており、別府斎場に行くことがあるのですが課題があるように思います。誰もが人生の最後は“おひとりさま”になることから、おひとりさまになったときに安心して過ごせるまちになって欲しいと思います。そうしたことから、『孤独死ゼロの、人生最後を摂津市で』というキャッチフレーズまで考えました。
- ◆ 2歳のときに正雀に移り住んで50年になります。物心がついたのがこちらですので、私は摂津がふるさとだと思っています。中学校区のすこやかネットに地域コーディネーターとして参加するとともに、“正雀駅前まちづくりワークショップ”に参加しています。摂津市の好きなおところは、人口も広さも適度で、“顔が見える”ということ。いろいろと問題点もあるように思いますので、良い方向に向かえるように話し合いができればと思います。
- ◆ このようなまちづくりを話し合う場に参加するのは初めてです。門真市立歴史資料館に10年以上前に訪れたのですが、その時以来、ずっと摂津市の歴史資料館を整備していただきたいと願っています。よろしくお願いします。

## 5. 今後の日程について

- ・ 今後の日程について、参加者のご予定を踏まえ、多くの方が参加できる日程として、事務局から第2回を5月11日（月）、第3回を5月29日（金）に開催することが提案され了承されました。
- ・ また、事務局から5月に市内をめぐるバスツアーを開催する予定であることの報告がありました。開催日程やコースについては事務局で検討したうえで、参加者に連絡されることとなりました。
- ・ 最後に、「ふりかえりシート」にご記入いただき、第1回のまちづくり市民会議を閉会しました。

(以上)